

再生不良性貧血の症例においては、白血球数、血小板数とで相関し、3型に亜分類することができた。また biopsy との比較でも一致を示していた。また Hodgkin 病の Staging でも骨髄シンチグラフィは有用であった。ただ白血病の症例においては、¹¹¹InCl による骨髄シンチグラフィーの臨床的有用性は確認できなかった。

28. 当院における甲状腺癌の¹³¹I 内用療法の現況

川瀬 良郎	瀬尾 裕之	日野 一郎
佐藤 功	児島 完治	高島 均
大川 元臣	玉井 豊理	田辺 正忠
(香川医大・放)		
宮内 明	前田 正純	(同・二外)

分化型甲状腺癌に対するヨード内用療法の有用性が諸施設から報告されている。当院でも昭和59年11月よりヨード内用療法を開始した。方法は Bierwals らに準じて 3 mCi で取り込みを確認後、残存甲状腺に対して 100 mCi、肺転移に対して 150 mCi、骨転移に対しては 200 mCi が投与されている。現在までに 9 症例と少なく、また経過観察期間も短いが、肺や骨に転移のある数例で効果を認めている。有効例として、胸部X線写真で肺野に多発性小結節影を呈し、¹³¹I 3 mCi の取り込みがあり、内用療法後 3か月の胸部写真で異常影の消失した症例を供覧する。

29. ^{99m}TcO₄⁻ を用いた甲状腺シンチグラムの検討

伊藤 信昭	佐々木正博	向田 邦俊
中西 敏夫	(広島大・放部)	
小山 純	勝田 静知	(同・放)

過去2年間頸部精査の目的で、^{99m}TcO₄⁻ を用いて行った108例の甲状腺シンチグラムについて検討した。

その結果、(1) 甲状腺腫大像例は8例で、すべて甲状腺が触知できたび慢性甲状腺腫であった。(2) 陰影欠損像例の、40例中38例が結節性甲状腺腫であった。しかし、良性と悪性腫瘍との間で陰影欠損像の出現率に差異を認めなかった。(3) 甲状腺内の異常集積像例は4例認めたが、甲状腺疾患との関連は明らかにできなかった。しかし、甲状腺外の異常集積像症例の3例は、いずれも異所性甲状腺例であった。(4) 甲状腺描画不良像例の11例の

中、4例は甲状腺機能の軽度低下例、2例は悪急性甲状腺炎初期例であった。しかし、2例は甲状腺機能正常の乳頭腺癌および縦隔腫瘍例であった。

以上より、甲状腺疾患のスクリーニングには被曝線量が少なく、廉価で前処置の不要な ^{99m}TcO₄⁻ は良い核種と考えられる。

30. ²⁰¹Tl-Cl による甲状腺癌の転移の検出

永井 清久	福永 仁夫	大塚 信昭
曾根 照喜	村中 明	古川 高子
柳元 真一	友光 達志	森田 陸司
(川崎医大・核)		
原田 種一	(同・内分泌外)	

甲状腺癌の転移に対する ²⁰¹Tl-Cl シンチグラフィーの有効性を検討した。甲状腺癌17症例（うち転移を認めたもの12例）に ²⁰¹Tl-Cl 2 mCi を静注し、直後より20分後までの early scan を施行した。転移を認めた12例中の8例の転移巣に Tl-201 の集積を認めた。転移を認めなかつた5例ではなんら異常集積は認めなかつた。組織別では乳頭腺癌の転移8例中の6例に、ろ胞腺癌の転移1例中の1例に Tl-201 の集積を認めたが、未分化癌の1例には集積しなかつた。転移の部位別では、骨転移は2例中の2例に、肺転移では4例中の3例に、リンパ節転移では9例中の6例に Tl-201 の集積を認めた。以上のように Tl-201 の甲状腺癌転移に対する成績は良好であり、縦隔部などの他の方法では診断しにくい部位では非常に有力な診断手段と考えられる。またヨードと異なり甲状腺の全摘をせざとも良好な画像が得られ、亜全摘後の follow-up にも有用である等の利点もあり、甲状腺癌の転移に適した核種であることが示された。

31. 甲状腺腫瘍におけるタリウムシンチグラフィの有用性について

佐藤 伸夫	森本 節夫	上田 裕之
中村 哲也	平木 祥夫	青野 要
(岡山大・放)		

¹³¹I または ^{99m}Tc によるシンチグラフィで欠損像として描出された乳頭腺癌7例、ろ胞腺癌7例、悪性リンパ腫1例、腺腫23例、のう胞3例について ²⁰¹Tl シンチグ

ラフィの比較検討を行った。のう胞では²⁰¹Tlの集積は認められなかつたが、腺腫や腺癌でも同様のシンチグラムを呈するものがあり、シンチグラムのみからは三者の鑑別は困難であった。悪性腫瘍の87%、腺腫の74%で²⁰¹Tlの集積がみられ、集積の有無のみでは良性悪性の鑑別は困難であったが、25分像においては、5分像と比較して悪性腫瘍の73%に排泄遅延を認めたのに対し、腺腫においては4%に認められたのみであり、25分像(short delayed scan)は、良性・悪性の鑑別に有用と思われる。

32. 甲状腺髓様癌および副腎褐色細胞腫における¹³¹I-MIBGシンチグラフィ

曾根 照喜	福永 仁夫	大塚 信昭
永井 清久	村中 明	古川 高子
柳元 真一	友光 達志	森田 陸司
(川崎医大・核)		
梶原 康正	西下 創一	(同・放)
原田 種一		(同・内分泌外)
田中 啓幹		(同・泌)

臨床的に褐色細胞腫が疑われた症例5例、甲状腺髓様癌の術後2例、悪性胸腺腫1例に対して、¹³¹I-MIBGシンチグラフィを施行しその有用性を検討した。

陽性例は、左副腎単発の良性褐色細胞腫1例と、髓様癌の局所再発巣、肝および骨転移巣に集積した症例の2例だった。褐色細胞腫が疑われた症例のうち陰性例は、精査の結果本態性高血圧症3例、副腎皮質癌1例と診断された。髓様癌の残り1例は、calcitonin、CEAの軽度上昇が認められたものの、他の手段にても再発病巣は検

出されなかつた。また、悪性胸腺腫は、APUDomaの1つとして腫瘍部への取り込みを期待したが有意な集積は認められなかつた。

¹³¹I-MIBGは、褐色細胞腫の局在診断上非常に有効な放射性医薬品であり、また、それ以外にも種々のAPUD系腫瘍への集積が報告されており、それらの治療を考える上でも興味深いものと思われる。

33. Non-functioning parathyroid Cystのシンチグラム：特徴的な集積像について

福永 仁夫	大塚 信昭	曾根 照喜
永井 清久	村中 明	古川 高子
柳本 真一	友光 達志	森田 陸司
(川崎医大・核)		
原田 種一		(同・内分泌外)

3例のnon-functioning parathyroid cystの症例に^{99m}TcO₄⁻による甲状腺シンチを施行したところ、特徴的な集積像が得られたので報告する。患者は全例女性(47~63歳)で、前頸部の腫脹を主訴として来院。血中Ca, T₃, T₄, TSH濃度は正常。^{99m}TcO₄によるシンチでは、甲状腺左葉は上方にstretchされ、左葉下極の下外方にcold areaを認めた。Echoはcystic lesionを示した。穿刺液中のPTH濃度は高値を示し、術前にparathyroid cystと診断された。左下副甲状腺にcystが多く発生することより、シンチ上、特徴的な集積像が得られ、核医学検査がその診断に有用な手段であることが示された。